

和書類從

三百卅三

庫文閣内			
三六函架	六六六冊	一八六九〇號	和書類

庫文閣内			
二五函架	六六六冊	一八六九〇號	和書類

内閣文庫	
番號	和 18690
冊數	666(417)
函號	215 3



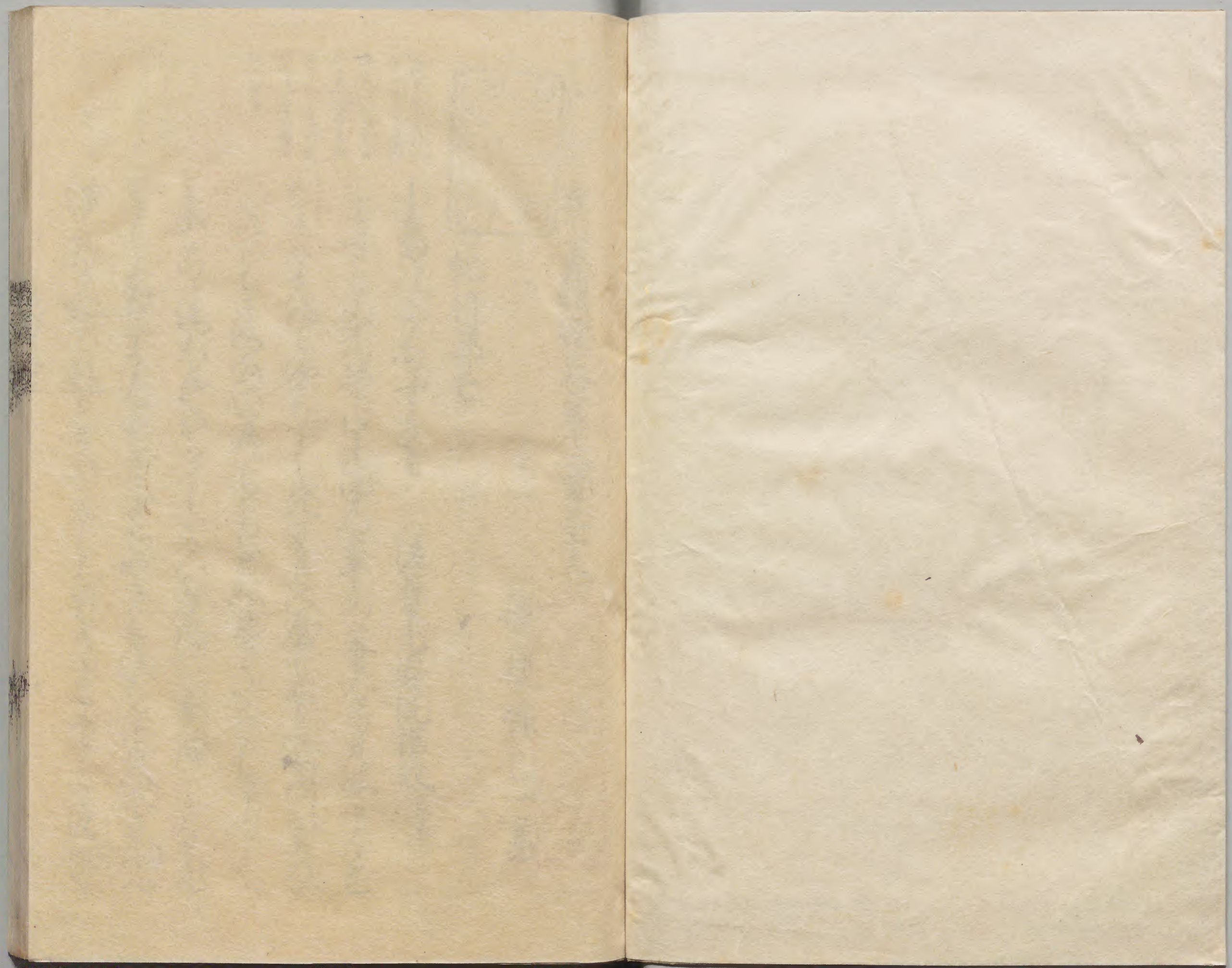
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

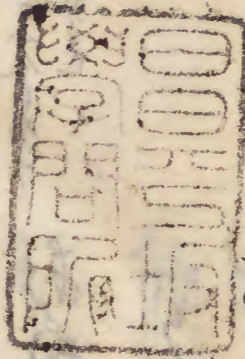




羣書類從卷第三百二十三

淺草文庫

檢校保己一集



紀行部七

歷代皇紀云文和二年六月六日壬寅

臨幸山門同十三日

赴美濃國着御

畠井宿小島行宮

同九月三日還御土御門皇居

小島流るるすきと 後普光園院攝政 良基公
在るる山の楮中院乃草の蕃を穿たるる
くはれを傳りてはるる殿をぬえわたり
とるるのいなりもせぬぬるる
あはれをぬえわたりてはるる河舟かた
とるる人せこふとくはるる
はるるのれとくはるる

はるるのれとくはるる
はるるのれとくはるる
はるるのれとくはるる

續神皇正統記云
文和二年小南宮
軍勢極將也
臣如爾わんわんんま
八時ひつひつんま
入る六月可延曆
寺母てらてらまま
よりより延列えんえんりり
下向あり

良基于時関白前
元大臣位三十四

か〜〜〜あ〜〜あ〜た〜ひ〜あ〜あ〜あ〜
り〜因に東〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜
き〜や〜す〜す〜す〜す〜す〜す〜す〜す〜す〜
中〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜
を〜え〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
を〜ら〜出〜く〜は〜は〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
す〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜
良基

い〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜
な〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜
法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜
法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜法〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜
か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜
う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜

諸門跡譜云賢俊
大僧正日野大納言

俊光卿息

也侍りける伊吹乃をききこゝりやいふおののそが
うららうくとゆりとをゆく敷うめをみまこさ
ぬ小野也うやい取りて三寶院僧正賢俊より
あふ近江のがえ急くとちこくひて侍りけり
かゝるの影陰なる堂のこゝろみこしめこす
て全いめはぬわはらひぬむおはるの流のた
らへへのおめおは流きたぬきくまの屋
かゝ都はるこぬぬのこゝろあふおはるぬの
き歌ふとめとたかく侍りて志進すのぬみこの
すゑらるる子と出ひ敷とわの流と志進をせし

うゝて新がふふ松乃陰をい敷とらうとて
わさひ川が氷かたなる世とてわらうすて海ふ
世にしらぬとこ流さみおもふとこはあうおあう
し厚そえ又のきんくはのてらとてわらうとて
けあふぬに流も志進すの流のあふるひか
花さこといふまのあふ出く手あういふとて
すくいとめくたさああわ

今よりわうがけし夏とてあう水は流て末とあふ
婦人の冥屋をじうとてあふ世にふれぬめ
やうなる板ひと竹のいふとらあゆの

新古今秋
後醍醐天皇
入道ぬす
冥屋の板ひ

秋乃心法さうゆをうきこめくひり
 ぬめいしんせいしんさうさう一糸の書虫の夢も
 かひ松伝めくゆり秋とまはれ敷をうまはな
 えしんを伝へられしひさしやをさうゆく
 ひさしを伝へしとなくはめいひぬくはるのそも
 あまのりにんはる川あまのりもくはる二條
 中納言乃をうらひりたるはる川あまのりさぬ
 この岩はらさゆもやう新瑞竹のしんはるゆり
 かたすのこりつ風もあまのりもあけし
 一転さぬるはるをうらひりたるはる一日りい

後光嚴

也きこさるもやうく小島は宮へ海いり
 ぬめいしんせいしんさうさう一の袖とまはり
 ぬめいしんせいしんさうの光澤しんはるゆり
 めくこのはるか見ゆり一肉裏乃あつはる
 是とれいひりぬを海はあつはるゆり
 ぬめいしんせいしんさうさうのしんはる
 ぬめいしんせいしんさうさうのしんはる
 かたすのこりつ風もあまのりもあけし
 一転さぬるはるをうらひりたるはる一日りい

此堂とて人ほ多し一は法如く修りて
思ふ水乃かきし給ふもくはるはた
かろく母のいふものさぬまの又乃白も
一日毎くは法如く一は法の教ふ
多ひ好の心をばいへるもくはるはた

ふく又くはるはたの指のふくはるはたの指の

時光権大納言
三位日野大納言
名卿男

時光朝臣のさくは法如く修りて
治くはるはたの指のふくはるはたの指の
あつし賢俊僧正のくは法如く修りて
しつはましくおまきくはるはたの指の

あつし賢俊僧正のくは法如く修りて
しつはましくおまきくはるはたの指の

あつし賢俊僧正のくは法如く修りて
しつはましくおまきくはるはたの指の

あつし賢俊僧正のくは法如く修りて
しつはましくおまきくはるはたの指の

あつし賢俊僧正のくは法如く修りて
しつはましくおまきくはるはたの指の

あつし賢俊僧正のくは法如く修りて
しつはましくおまきくはるはたの指の

魚天象

付と野山ありまよのをも月夜にふりかへん
旅曙

横をれば波と暮を海とくもかへくも海はくも
世はをくはくも海とくもまつらあつら
人の中はありし海とくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
えくもくもくもくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
むらもくもくもくもくもくもくもくもくも

くもくもくもくもくもくもくもくもくも
且八月十日はくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも
かたみちの海とくもくもくもくもくもくも

八月十日あまのくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくも

浦くもれいさるあしはくしんあふ
 らるるのよもしむかひのあはれ
 ららあしはくしんあふ
 名よあはれをきかぬあはれ
 蘊念天狗言その氏はかしのあはれ
 是をたあはれはくしんあふ
 かしはくしんあふ
 あはれはくしんあふ
 文のさくあはれはくしんあふ
 うあはれはくしんあふ

きをのうあはれはくしんあふ
 取ふはくしんあふ
 八重はくしんあふ
 うあはれはくしんあふ
 乃秋のさくあはれはくしんあふ
 あはれはくしんあふ
 世よあはれはくしんあふ
 人あはれはくしんあふ
 うあはれはくしんあふ
 うあはれはくしんあふ

なるものなりぬ一陸軍とてはしるる海軍と
 ありし也これたのいひし事なりとのいひし事なり
 なる中しくい海軍といひし事なり海軍ありし
 以て九月一日海軍とてなりし事なりとていひし事なり
 急てさういふ一軍なり海軍といひし事なり
 武士とも花ますとも海軍といひし事なり海軍
 かりし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 ぬのひとも海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 とていひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 小具是なりとて海軍といひし事なり海軍といひし事なり

小田佐井がといふものなりとのいひし事なり
 とも水の金に海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 きつらぬといひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 心代といひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 ぬるに本兵部大補小田がといひし事なり海軍といひし事なり
 を海軍といひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 命鶴丸の船といひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 えしし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 取あふし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり
 すし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり海軍といひし事なり

海より入りて人おすまじりの川馬十丈の世
 きつてくはれも及らぬまのともなひの東國乃
 名馬とのこりふくはりのあつりやまき
 佐竹ふらなごといひく大馬もやの敷おふ
 將軍やとすくは肉裏へ海より松宮の外よめし
 具くたる宮をまきとめ無くなく一人まじり
 庭よみ入中門のあもりて頭弁後を朝臣のく
 奉りよくを奉りて西園を左衛門督いといひて
 導はらふはて堂上ははあのみくはりつと
 かく海より入りて若くはあつり長きまき

は西より入りて肉裏をまきの侍くかふはれ
 ちりるをまきりつりぬ海よりいり侍りてまき
 くらりて海よりけりぬはあつりまき
 井へ陳孝は後とまきりてまきりて真持まきの
 書をもまきりてぬくおまきりてまきりて
 此とまきりてまきりて仁義をまきりて海入てま
 也くまきりての運をまきりて化海くまきりて
 此りくまきりてまきりて頼朝後鳥羽後鳥羽大将建後鳥羽余
 くらりて上洛をまきりてまきりてまきりて
 め林より入りてまきりてまきりて上益の化産よ出済

頼朝卿海にひらけし魯座に後作ありし日記
 ふんじゆらるるのしるも清姫の日記の
 りやけしむもまよふもていへんかき
 又日貢馬十ひら目裏へあそびけりて
 名馬ふらふもまよふもていへんかき
 ふらせし一匹五車もみらけりて
 うそそ悲しは後しは世にふらふも
 る事しむもまよふもていへんかき
 たりてたけしむもまよふもていへんかき
 今ひの日記にふらふもまよふもていへんかき
 してありし中へ連がふもていへんかき
 むのよそ悲しむもまよふもていへんかき
 りやけしむもまよふもていへんかき
 くらむもまよふもていへんかき
 沖會らむもまよふもていへんかき
 大臣道詞以下四韻に詩をよめし海にひらけし
 を藤をよめし次母哥乃後母はうせし
 けれと世世日色海にひらけし
 一巻をよめしはうせし

人の詞乃よめしはうせし

皇の御事ありてはなかりきりて
 武苑ありては厚のては寸行奉ありては
 をすくみりては寸行奉ありては
 今の内はかきとては寸行奉ありては
 めきとては寸行奉ありては
 此帝れ候ふては寸行奉ありては
 免さそは寸行奉ありては
 沖ありては寸行奉ありては
 都に道もあきそは寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては

此將軍はありては寸行奉ありては
 くりりては寸行奉ありては
 みりては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては
 ありては寸行奉ありては

とてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 免へずおのつらふ世の〜も後乃まの〜とてあはれも〜
 きふとほひとあるのゆゑの事と旅のつま
 くおちよとてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 ともひと書はるるゆゑの事と〜とてあはれも〜
 けふもあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 おとつてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 世と〜とてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 あはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 世と〜とてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 おとつてあはれも〜とてあはれも〜とてあはれも〜
 か

良基公御判

依持是院法中 推大僧都 姪椿 見索末首春別秋陀之朝終書
 切矣

卷三百三十五

三十一

